

インターバンクの声（2017 年 4 月 5 日）

前日のロシア地下鉄で起きた爆破テロの影響が思いのほか大きく、市場にリスク回避の動きが広がったことで、ドル円は 3 月下旬には何とか下げ止まった 110 円台前半まで円買いが進んだ。ニューヨーク時間担当の同僚によれば、昨夜の最安値 110 円 28 銭を付ける直前のドルの下げ方が急だったので、『今回は 110 円を割ってしまいそうだ』と感じたそうだ。

ところがその直後、2 月の米貿易収支の発表を確認することなくドル買いが強まったらしい。単純にドルを買い戻すレベルを決めていた投資家が買ったと言ってしまえばそれまでだが、その後に大きくドルが上昇したのは米貿易収支の対中、対日貿易赤字の大幅減少が背景となっていたのは間違いない。

トランプ大統領は会合で「貿易赤字が大きく減ったのを見てうれしかった」と語ったそうだ。単純な大統領だ。この対中貿易赤字の減少でトランプ大統領が習近平・中国国家主席との首脳会談で赤字削減策を求める圧力を弱めることはないだろうが、まずは北朝鮮をめぐる話し合いが優先だろう。

週の中盤まできたので米中首脳会談や米雇用統計の発表待ちモードに入ったと思われるが、ドルの上値は依然として重く、引き続きドル売り仕掛けに要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。